高齢者・障がい者・健常者が共に暮らすために

３．高齢者対応型施設の事例

事例①：総合医療・福祉施設ベーテル(ドイツ)

面積：約1200ha
病院、農業経営、作業場、製造工場、商店、食料品店、サービス業、学校を包括して経営している。

事例①：総合医療・福祉施設ベーテル(ドイツ)

障害の有無にかかわらず働けるシステム

生産から販売まで「良いものは高い」という付加価値をもって行っている。

事例②：大学跡地利用CCRC(アメリカ)

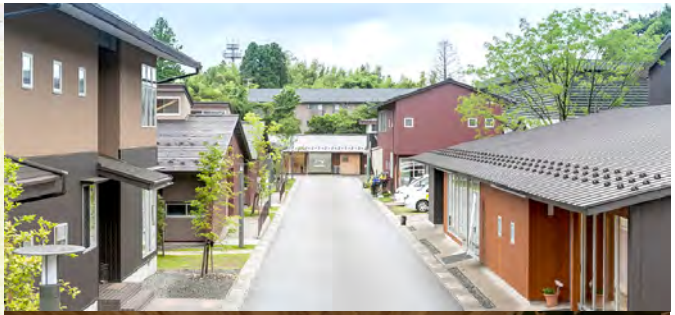
中間層が入手できるCCRC(Continuing Care Retirement Community)

継続したケアを提供するための医療・介護サービスシステム

廃校になった大学校舎を改修して活用

自立型住まい1,570室、支援型住まい132室、介護型住まい270室

事例③：シェア金沢



高齢者向け住宅32戸、アトリエ付き学生向け住宅2戸、児童入所施設併設

デイサービス・訪問介護事業所のほか、農園や温泉、店舗、飲食店、キッチンスタジオなどを併設

事例③：シェア金沢

高齢者や学生等が、多世代交流、ボランティ ア、農作業、住民自治等を行いながら生活。

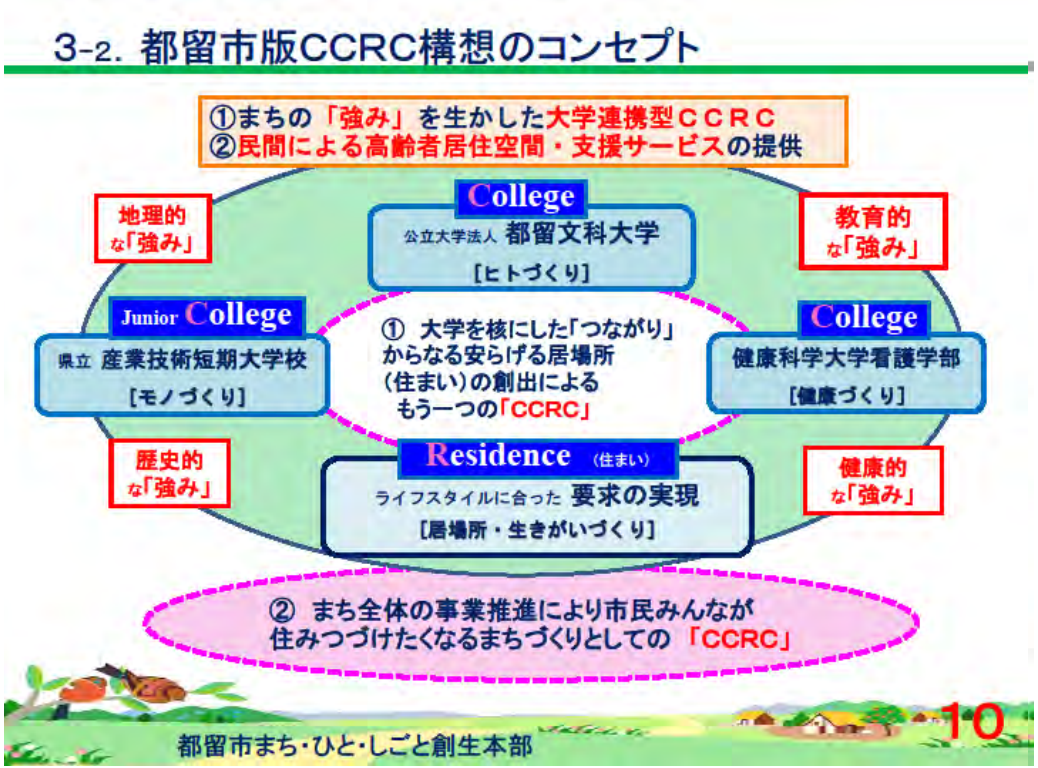
居住する障害児・学生や、周辺地域から店舗等に来訪する地域住民などとの交流が盛ん。

多世代（高齢者・障害児・学生）の住居をバラバラに配置し、交流推進。

事例④：都留市版CCRC構想

- 東京・新宿電車で約80分、高速道路で約1時間
- 人口約3万1000人の地方都市
- 市内に3つの大学がある

事例④：都留市版CCRC構想



- まちの強みを活かした大学連携型CCRC
- 民間による高齢者居住空間、支援サービスの提供
- まち全体の事業推進

事例④：都留市版CCRC構想

- 市内8カ所を想定
- 160戸の既存団地活用
- 市内全域の空き地活用
- 都留文大の隣接地に大型の民間事業者の誘致を検討